

# The economic structure of the Edo Kabuki theaters and Ichikawa Danjûrô II as a Kyôhō- time manager

Tove Bjoerk

St.Paul`s Rikkyo University, Graduate School of Arts

---

# Ichikawa Danjûrô II

1688–1758



# Nakamura za

Hishikawa Moronobu *Kabuki zu Nakamura za naigai zu byōbu* (菱川師宣『歌舞伎  
図(中村座内外図)屏風』 Genroku era (1688–1704), Tokyo National Museum)





# Capacity of the theaters

Sekine Shisei ed; Tōto engeki enkakushi (関根只誠編『東都演劇沿革誌』  
Kokuritsu gekijō geinō chōsashitsu, 1964, in the following EKS)

○六代目勘三郎座元勤中日誌の中抄録

一、十一年以前正徳四年三月二十二日迄、芝居棧敷三階、中通、下棧敷三通りにて有之候所(中略)残り三座は芝居棧敷は上下つぶされ、中通り一通りに被仰付迷惑仕、其後御願申上、漸く笹屋根にて芝居仕候処、享保八年卯年に火除の為とて惣而江戸町並土蔵作り被仰付、成程丈夫に瓦屋根に可仕旨申上候、殊に棧敷下縄張致候段紛敷御座候へば、逆もの御事に下棧敷御免被下候様御願申上候へば、右之段被為聞召分、辰四月十八日御内寄合にて御赦免被仰付候(下略)

# Entrance fees & Turnover

*Kaki byôshi* 享保十九年八月二十日、芝居サジキ下共ニ見事ニギアヒ也。手前座一貫三百ワリ也。隣座四百ワリ也。九百文ノチガヒ也。此日、惣十郎忍ビテ見物ニ来ル。

享保十九年八月二十二日、芝居大入、大サジキ、一貫五百ワリ。隣ハ二日ニテ七百ワリ。

享保十九年八月二十三日、此日ワリー一貫四百文、隣ハ只四百文也。

EKS 元文二年九月一七日 棧敷東西三十二間此代十六両、末の場所割見三両ト錢二貫六十四文、人溜切落札上り高八百三枚、此代錢百三十一貫七百文、中下場代錢十二貫三百五十文、向仕切八貫百六十四文、 $\times$ 金に直し四十一両錢二貫三百三十二

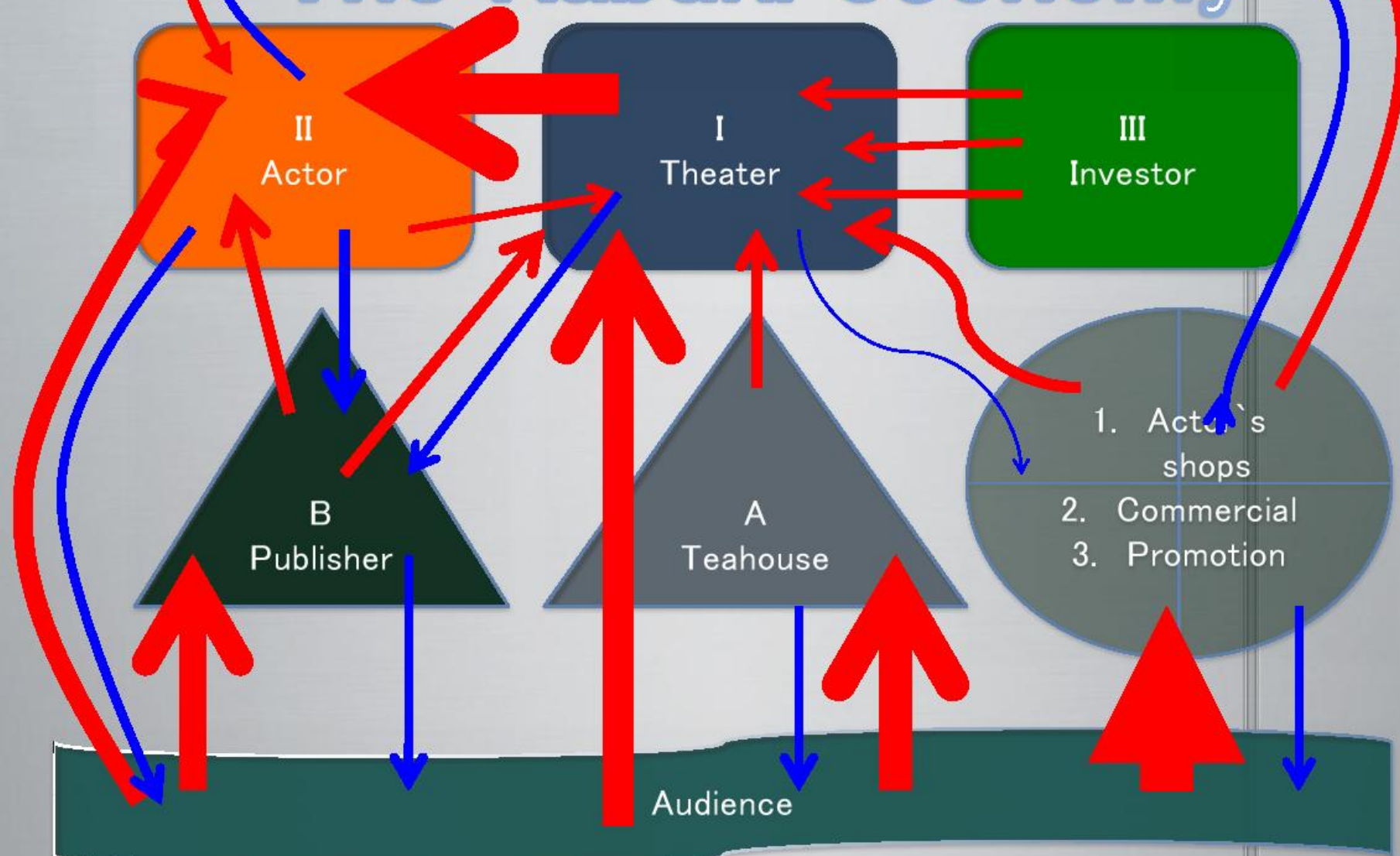


# Ichimura za

*Ichimura za banai zu byôbu* 『市村座場内図屏風』 Kyôhō 18 (1733),  
Waseda Theater Museum)



# The Kabuki economy





## II. The managerial network of Danjûrô II

### A. The internal network

*Kaki byôshi* 享保十九年六月十三日 江戸ヨリ梅里、古洞  
二人来ル。右ハ三右衛門コト。七月ヨリ番付ノ名ヌグヒ候  
コト相談、古洞ハ又狂言世界ノコト。英子ヨリ口上、今川  
力中将姫力小アツモリカト。予返事ニ今川ヨカルベシト云。



# The Arashi Sanemon III- case

*Kaki byôshi* 六日より二番め出三右衛門顔見世大入也。二三日評判よかりしに三右衛門声ひしとかれ、夫よりそろ／＼評判あしく、とかくかる過下ひたなどゝいろいろ／＼評判也。是顔見世病氣にて不相勤人氣くしけるゆへ歟

三月十一日二名題出ス。スエヒロ隅田川、翌十二日、マネキ五人男ノカンバン出ス。評判大キニヨシ所ニカンバンダスト三右衛門又病氣、散々ニテ十五日ノ初日十六日延引狂言立替へ、三右衛門替半五郎ニ直シ十六日ヨリ初日出ス。三右衛門ハ前代未聞名賀ナキ役者也。仲間見物トモニ散々ノ評判江戸中ノ笑草、祖父親迄ノ名ヲ下シ、扱々笑止成事トモ也。役者タルヘキ者心得ベキ事也。

五月十三日 庄介樂ヤへ来リ、三右衛門コト云分。病氣快氣ニ付、近日舞台へ出スハヅ。三右衛門ト女房ガ文云分、其文ヲモ見スル。

七月二十四日 夜ノ内三右衛門ナイ／＼京ヘノボル発足。此夜明頃ヨリ大雨、三右衛門不仕合者也。

七月二十五日 三右衛門旅行アハレ成コトトモ也。世ノ笑草也。思ヘバセウシナルコトトモ也。

# The Tsuuchi Jihei II- transfer

*Kaki byôshi* 九月二日 昼過椿昌来ル。英子イトマノコト内意ヲ云。  
又椿昌二人ジン五分遣ス。

九月三日 英子昨夜勘三郎座へ身上相済。其日ハ何江、十町、  
椿昌、佐兵衛、庄助寄合、相談。何江ノ部屋ニテ予ハ中座ス  
ル。

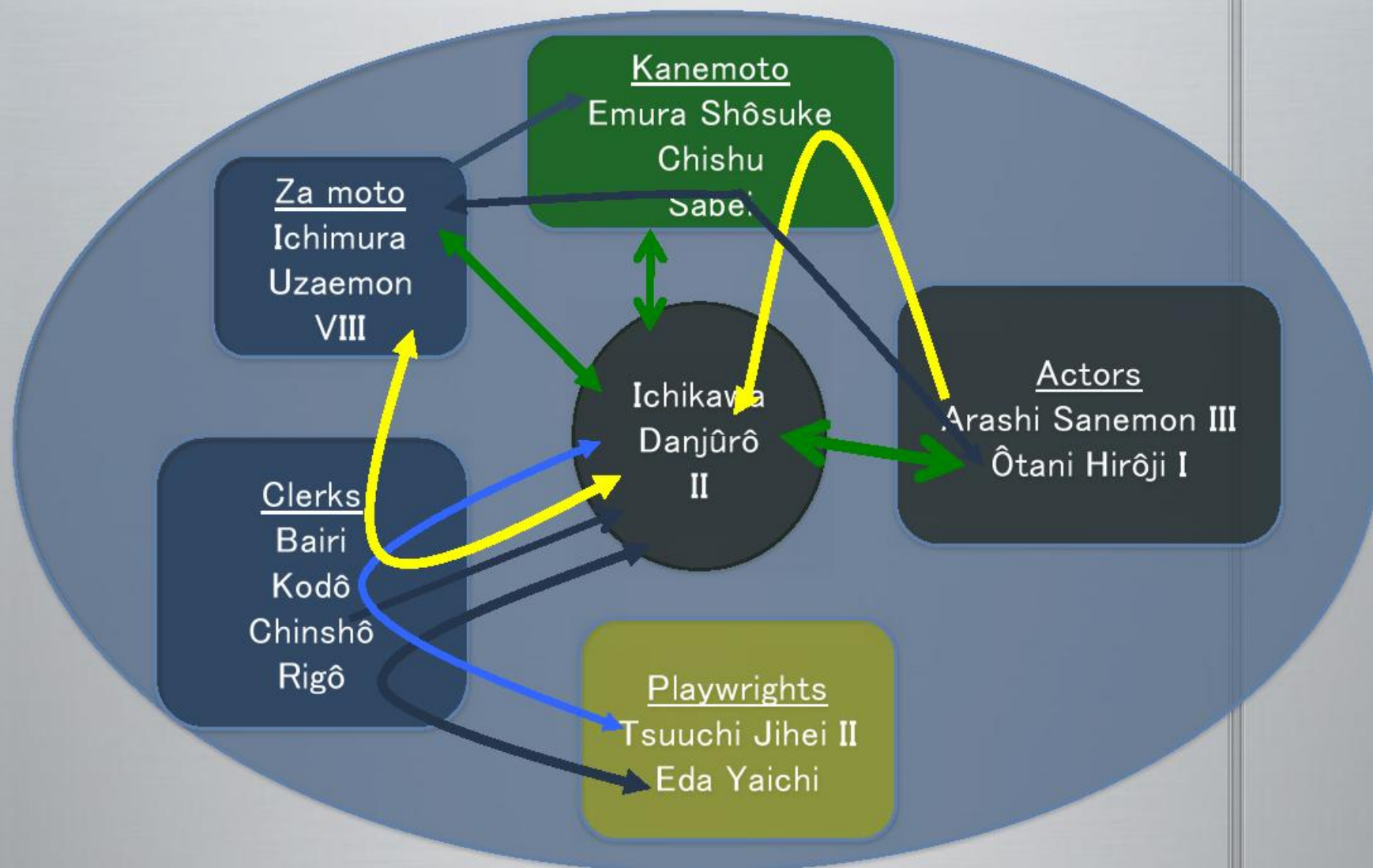
九月四日 朝、英子ヨリフミ来ル。宗三郎ヨリフミ来ル。何レモトベ  
ケノフミ也。

九月六日 里郷来ル。富百事頼ム。

九月七日 何江楽ヤニテ里郷来ル。何江、里郷、十町、予富百相  
談。(中略)其夜、里郷金五両、富百ガ手金ニ遣ス。

九月十六日 此夜富百、身上相済。里郷連来ル。

# A. The internal network





## B. The intermediate network

### 1. The teahouses

Kitao Shigemasa *Ehon sanku egusa* (北尾重政作『絵本三家栄種』 Meiwa 8 (1771), National Diet Library)



*Kaki byôshi*

九月十八日 神田御祭礼、昼何江見之。休意ノ内出クレ候様ニ内意ノタノミ。其夜十町呼、異見。十町納得、予ニ手ヲツキ礼ヲ云。其夜大久来リ、是モ十日勤クレ候様ニト茶屋不殘頼ノ内意。其日大棧敷也。八百ワリ。

九月十九日夜ニ入テ、春耕、五粒来ル。又沾津、梅里来ル。此二人ハ休意ノ内ヲ十日迄ツトメクレヨトノ願也。フキヤ町茶屋不殘ソシヤウノヨシ。承引シテ帰ス。

九月二十日其夜、椿昌呼、三番目ツメヲ書ク。昼前、フキヤ町茶ヤ中間不殘ハカマニテ十日勤ムル迎礼ニ来ル。山田ヤ、大コクヤ十左衛門、巴ヤ三九郎、子ヅルヤ、其外ハ三ブ見ヘ。暮前庄介樂ヤヘ礼ニ見ユル。

九月二十一日 朝ノ内椿呂(割注:昌カ)呼、三番メ詰書ク。

九月二十二日 芝居過テ三ノケイコ。手前二階普請。

九月二十六日朝、イカベセシカ虫カブル、三十郎呼ヒ針立、早速腹痛ヤム。一日曇ル。三番メツメ出、評判ヨシ。



## 2. Danjuro II and the publishers

*Fushi gundan kakei serifu*

(「父子軍談かけ合いせりふ」)



*Yushi soroe kakeai serifu*

(「勇士揃かけ合せりふ」)





*Yakusha sechi burumai*, (1733) (『役者節響応』享保十八年正月刊) 去年六月から此座につとめらるゝ極番附を、町々へ売ひろめ、団十郎役者請(中略)盆の中から顔見せの棧敷は売切て、一軒もなかつた。さあこんな前からもてはやす役者のはづんだ顔見せがあるかいふて見よ。神代にも聞ぬ事だ。

*Kaki byôshi*

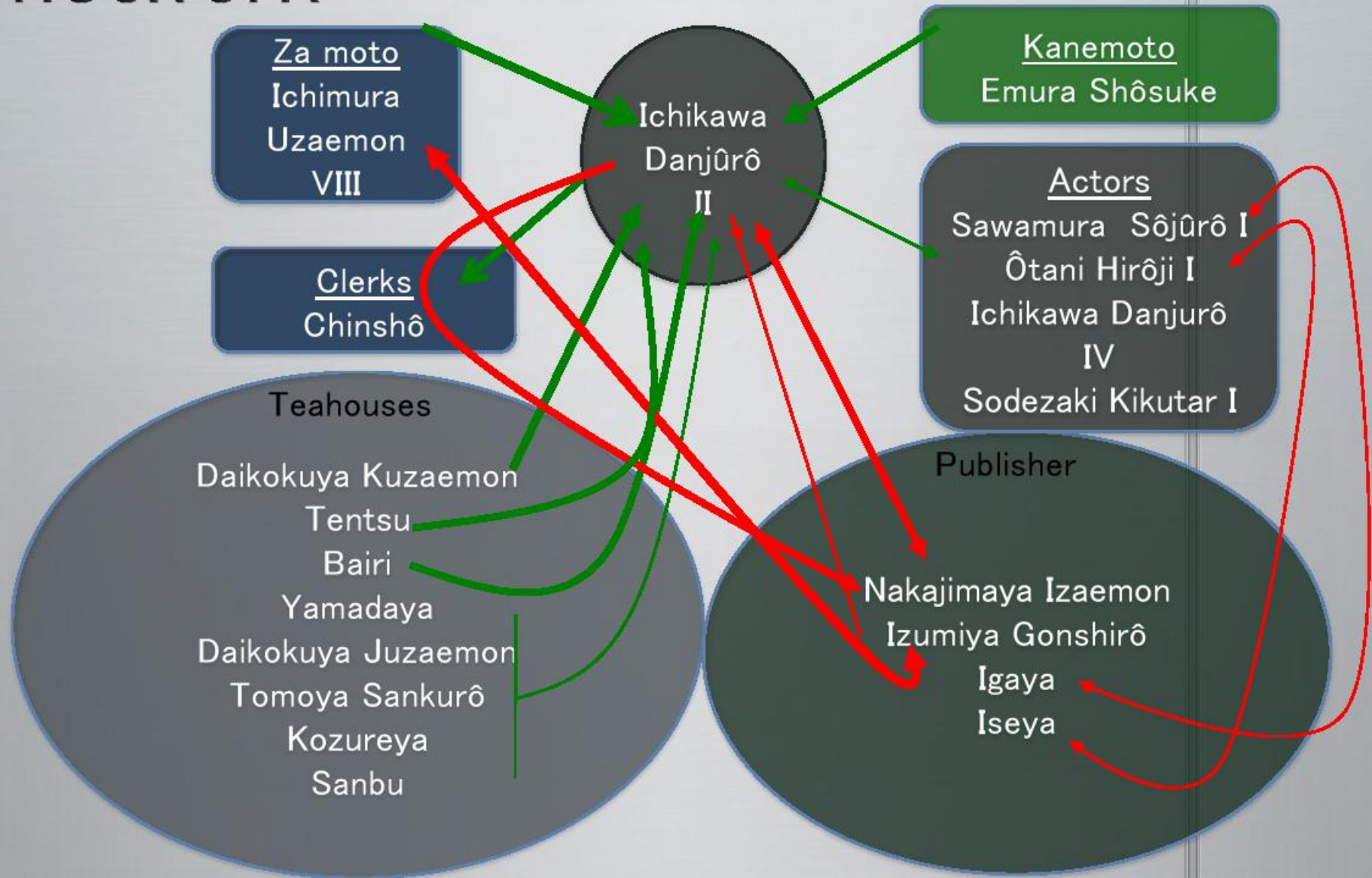
八月十九日 三番メ初日大ハネ也。一貫二百ワリ也。予親子ノ段ニテ仕廻、至極ノ評判ノヨシ喜悦。大夫初、十町、杉暁、南北、表内ニ皆々予ガ楽(割注楽屋)へ入テ、雀踊シテ喜悦也。

八月二十日 芝居サジキ下共ニ見事ニギアヒ也。手前座一貫三百ワリ也。隣座四百ワリ也。九百文ノチガヒ也。此日惣十郎忍ヒテ見物ニ来ル。(中略)九ツ頃晴月ヨシ。予カケ合ノセリフカク。板木ヤアス遣ス心也。

八月二十一日 セリフ中島ヤヘ遣ス。伊左衛門直ニ来ル。其朝大コク久左衛門悦ニ来ル。此日大入、サジキヒシト有。見コトナルコト也。一貫二百ワリ。隣ハイリナシ。コヨヒ申子也。芝居ニテ泉ヤ権四郎来リ、間違ノコトヲワビコトス。セリフノコト也。

八月二十九日 晦日ナレ共、入さしき大きによし。此日、湖萍のさしきと見へて、東かは下二間暁雨予見ゆる。手前へハ善明院被参、釜シテ祈祷也。(中略)泉ヤ権四郎ヨリ坂下来ル、トクト見遣ス。勇士揃ノセリフ也。

# B. The intermediate network





# C. The external networks

## 1. Actors shops

Kitao Shigemasa *Ehon sanku egusa* (北尾重政作『絵本三家栄種』  
1771, National Diet Library)





*Naniwa tachigiki mukashibanashi* (1686)『難波立聞昔語』(貞享三年十一月刊)

上村辰弥 自分但シ家ニヶ所ニ有、浪江小勘 家壺ヶ所有但シ自分、金子彦太郎 家壺ヶ所但シ自分

*Warekoromo*『我衣』宝暦十三年刊)

寛文年中、日本橋室町一丁目へ、若衆方中村数馬、伽羅油の見世を出す、少し前に糒町へ、谷島主水といへる女方、油見世を出す、是油みせの元祖なるべし(中略)上油一両に付、代二十二文、極上白匂油一両、代三十六文、極上々黒匂油一両、代四十六文、右之通にて売に、甚買人多し、云々

*Kaki byôshi* 享保十九年六月四日 昨三日暮六ッ時、訥子が商見せへきほひ共ふみ込、かけやにて見せをうちこはし、堺町大さはぎのよし

## 2. Commercial

Torii Kiyomasu I *Ichikawa Danjûrô II as a moxa peddler* (初代鳥居清部『もぐさ売り』 Shôtoku 5 (1715), Boston Museum of Fine Art)





*Kindai seijidan* (1734)(『近代世事談』享保十九年刊)

元禄のはじめ、神田鍛冶町箱根屋庄兵衛といふ者、箱根の湯泉洒と称して、切艾を製す。看板あるひは艾の印に三ッ角の紋を付る。これ市川団十郎といふ芝居役者の紋也。此切艾の製よろしとして、江戸中に流布す。是を倣い所々に切艾の製あり。庄兵衛が印を摸して、おの / \ 三角の紋を付て、三升屋兵庫、市川屋何某などゝ名を付て、これを売也。団十郎がはじめたるにはあらず。

*Yakusha futokoro zetai* (1715)(『役者懷世帯』正徳五年正月) 一流かわりしぬれやつし、当流の御立役、切もぐさの簡板を結縁に出しますぞ。めうが錢をあげさせられい

*Yakusha toshi otoko* (1729)(『役者登志男』享保十四年正月)

年々見升の紋所、かはりめごとに、あたらぬといふ事なく、商ひみせのかんばんにも、三升の紋を付て、紋のお影で、錢もうける人おほし



### 3. Promotion

*Hanafusa bunshin Soga* (1734) (『栄分身曾我』享保十八年正月) *Ziguchi some kakeai serifu* (*Sanza seriyose*), *Agemaki Sukeroku kyogen no ki* (『総角助六狂言之記』享保末刊)

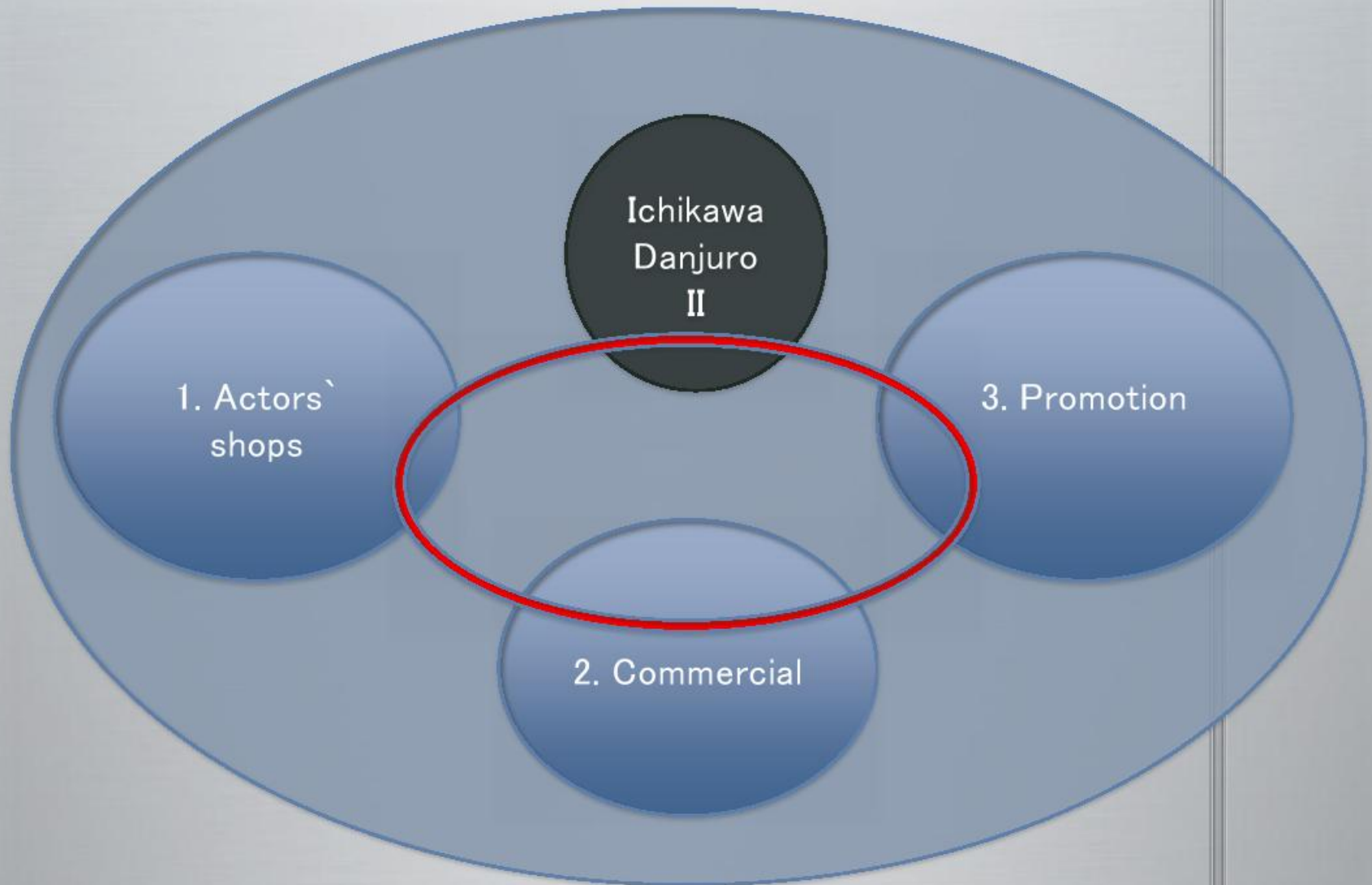


Nishimura Shigenaga *Furyû kantan no makura* (西村重長画『風流邯鄲枕』  
Kyôhō-Hôreki, Tokyo National Museum)





## C. The external network



# D. The Audience

. *Ehon sanka egusa*





# Matsuura Atsunobu

*Kaki byôshi*

享保十九年正月二十七日 両国はしひしや小右(左)衛門方へ松浦御隠居様入被遊、何江、予行、一漁に出合、過し十一日には大黒やへ御出被成、予酒気故足をくちき足駄ふみけしき、一笑

享保十九年八月十五日 良夜の風雨後は大嵐也。され共家内めてたく母人伯母御きげんよくよき月見也。島台品々(中略)松浦の御隠居様よりくしあ白身、つとにして拝領

享保十九年十月二十日 此朝松浦様ヨリ紅毛人形見ヨトテ大久持参

享保十九年十月二十三日 晴天。松浦篤信公へ何江、邑州、予父子参上。満蔵、升五郎一所ニカチニテ先キへ行、何江ト予ハ一所ニ駕籠ニテ行。何江予ガ方へ来リシバラク咄ス。椿呂居合ス、御屋敷へ行テ御庭紅葉也。御茶ヤヨリノ冬カレオモシロシ(中略)一漁、サカクラ、助治、夕丈、源享、大久、沾耕ナド也。紅毛ギレ拝領ス、何江モ同前、満蔵ヘシンチウノ香箱、徳弁ヘ瑪瑙ノ香拝領。オフデ、オキヨ来ル、一漁ト予ト四季ノ端唄作ル(中略)夜ニ入御目見、御前ニテ徳弁大文字書ク、アクタ川ケンケイ手伝ヒ。予ハ酒ニ酔テ御玄関ニ寝ル。

# Tsugaru Nobuhisa

*Kaki byôshi*

享保十九年八月八日 笠翁老人へ文遣す。宗兵衛を通。頼の扇子五人の者認出来、それを遣す。何江、仙魚、春耕、薪水、十町也。右は津軽御隠居へ笠翁細工の島台さし上らるゝ、物数奇の内。笠ばこに成る扇子也。(中略)笠翁ヨリ返事サツソク地紙トカヘシノ画二名印押来ル。

享保十九年九月二十一日 朝ノ内椿呂(割注:昌力)呼、三番メ詰書ク。(中略)此日手前芝居棧敷ヒシトフサガリハンジヤウ。東ガワヘ三間ツベキ、津軽ノ御隠居見物、一貫ワリ。隣ハスベテウリナシ。



# Temple priests

*Kaki byōshi*

享保十九年八月六日 岩付浄国寺御来義。予在宿ニテ久々ニテ対面。明年四月開帳ノコト御頼也。

享保十九年八月十九日 内へ岩付浄国寺御来籠。予御目ニカヘリ、夫婦十念ウク。明日国へ御発足ノ由。  
イトマゴヒニ御出。クレ／＼来年ノ開帳ノ御事御頼也。

享保十九年十月一日 大入、大棧敷。長伝寺ヨリ出家客棧敷モラヒ見スル。長伝寺モ見ヘラレ、五所柿  
二籠持参。硝子細工ノ発句望マレ遣ス。椿呂(割注:昌カ)ニカヘセ薪水遣ス。此夜目黒ヨリ手作ノ菊  
来ル。御フミ拝見喜ブ。

水仙ヤ衣通姫ノバガメ物 才牛

ヨツヒイテ瓢箪細工アタリケリ 徳弁

ビイドロヲフクベカモトヤ棚涼ミ 十町

輝クヤビイドロカゴノ月日星 薪水

右皆予ガ代句也。

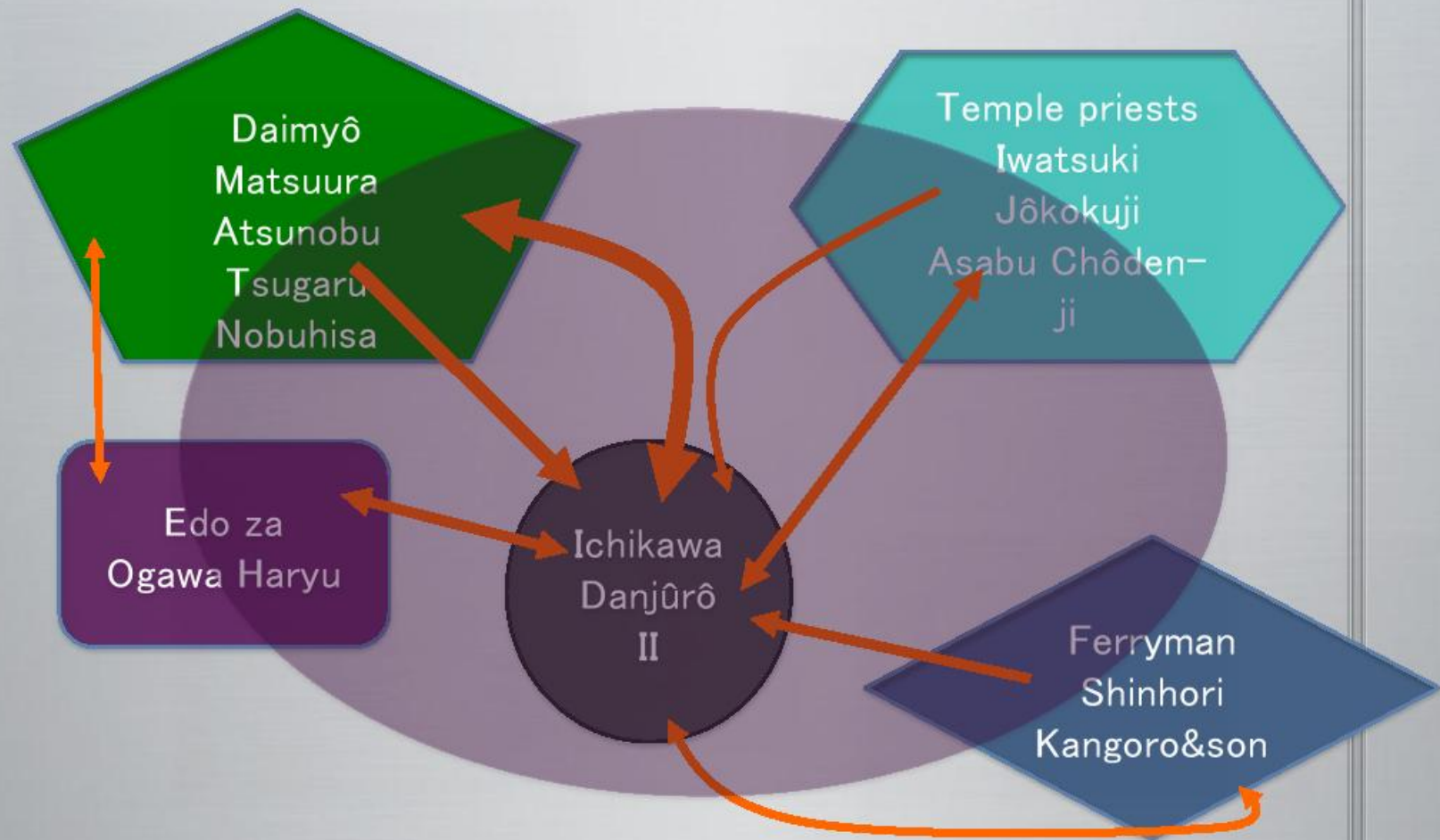
# Shinhori Kangoro & son

*Kaki byôshi*

享保十九年九月二十七日 皆々参詣宵ノ内、新堀ノ又七ヲ連、木戸長五郎来ル。是ハ金二分合カシタル礼也。キノフ、親堀勘五郎ト云船頭来リ、予ヲタノム。又七予ヲヒキキノ余リ喧嘩仕タルモメノコト、アツカヒニテ済候ヨシ。其礼迎梨四ツ籠ニツ又七持参



# Danjûrô and his fans



# Conclusion

